



島田市の教育

「令和4年度全国学力・学習状況調査」からみえる島田市の子供

1 調査の概要

- ◇目的
 - ・児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、授業改善を図る。
 - ・本調査の結果を子供への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇実施日 令和4年4月19日（火）
- ◇実施対象 島田市内全ての小学校6年生と中学校3年生
- ◇調査内容
 - ・教科調査（小学校→国語・算数・理科）（中学校→国語・数学・理科）
 - ・生活習慣や学習環境等に関する質問紙

2 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査結果 ＜調査結果（平均正答率）を領域別にまとめた＞

＜平均正答率＞

全設問における正答数の割合を算出した値（個人の正答率）を足し合わせ、子供の人数で割った値

＜記号の見方＞ 全国（公立）平均正答率と比べて

- ◎：+3ポイント以上
- ：～+3ポイントまで
- △：～-3ポイントまで
- ▲：-3ポイント以下



国語

小学校、中学校共に全ての領域において、全国（公立）と比べてやや高い正答率になった。

学校種	全体	領域別			
		話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	・言葉の特徴や使い方に関する事項(小・中) ・情報の扱い方に関する事項(中) ・我が国の言語文化に関する事項(小・中)
小学校	○	◎	◎	○	○
中学校	○	○	○	◎	○

小学校 ☆成果 ★課題

- ☆互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる力が付いている。
- ☆文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える力が付いている。
- ☆文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける力が付いている。
- ★想像した人物像や全体像と関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを明らかにしていくことに課題がある。

中学校 ☆成果 ★課題

- ☆自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す力が付いている。
- ☆事象や行為、心情を表す語句について理解する力が付いている。
- ☆場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する力が付いている。
- ★文章中で用いられている表現の技法（比喩等）について理解することに課題がある。
- ★論理の展開などに注意して聞くことに課題がある。

算数・数学

小学校、中学校共に全国と比べて高い正答率の領域もあったが、全体としては、全国とほぼ同等の正答率だった。

学校種	全体	領域別			
		数と計算	図形	変化と関数	データの活用
小学校	△	○	△	△	○

学校種	全体	領域別			
		数と式	図形	関数	データの活用
中学校	○	○	○	▲	◎

小学校 ☆成果 ★課題

- ☆二つの数の最小公倍数を求める力が付いている。
- ☆目的に合わせて概数を用いる力が付いている。
- ★示された場面を解釈し、立式の根拠を記述することに課題がある。
- ★百分率で表された割合を分数で表すことに課題がある。
- ★図形を構成する要素に着目し、図形を判別することに課題がある。

中学校 ☆成果 ★課題

- ☆簡単な連立二元一次方程式を解く力が付いている。
- ☆多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解する力が付いている。
- ☆目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する力が付いている。
- ★自然数を素数の積で表すこと（素因数分解）に課題がある。
- ★与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ること課題がある。
- ★事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に（立式する、表や数値を用いて割合を求める、グラフ作成する等）説明することに課題がある。

理科

小学校では、各領域で全国の正答率をやや下回り、全国と比べてやや低い正答率だった。中学校では、全国の正答率をやや上回る領域が多かったものの、全体としては、全国と同等の正答率になった。

学校種	全体	領域別			
		エネルギー	粒子	生命	地球
小学校	△	△	△	△	△
中学校	○	△	○	○	○

小学校 ☆成果 ★課題

- ☆結果を見通し、問題解決までの道筋を構想して自分の考えを持つ力が付いている。
- ☆観察結果から何が言えるかを分析して解釈し、自分の考えを持つ力が付いている。
- ★情報を複数の視点で分析して解釈し、自分の考えを持つことに課題がある。
- ★器具の名称を理解することに課題がある。
- ★水の変化（氷・水・水蒸気）を理解することに課題がある。

中学校 ☆成果 ★課題

- ☆二つのデータを関連付けて、天気の変化を分析し、解釈する力が付いている。
- ☆水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に、化学反応式で表す力が付いている。
- ☆観察結果と調べた内容を生活場所や移動の仕方と関連付け、節足動物の体のつくりと働きを分析して解釈する力が付いている。
- ★静電気に関する知識や技能を活用することに課題がある。
- ★他者の考察の妥当性を多角的、総合的に判断することに課題がある。
- ★課題に正対した考察を行うためのグラフを作成することに課題がある。

(2) 児童・生徒質問紙に関する調査結果からわかること

《よい傾向》

- ☆毎日、同じくらいの時刻に起き、同じくらいの時間に寝る。
- ☆学校に行くのが楽しいと思う。
- ☆今住んでいる地域の行事に参加している。
- ☆学級生活をよりよくするために学級で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。
- ☆学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする。
- ☆道徳の授業で自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組む。
- ☆（小学校）算数の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。
- ☆（中学校）理科の授業で、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てたり、観察や実験の結果を基に考察したりしている。

《力を入れたい》

- ★新聞を読む。
- ★地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりする。
- ★地域や社会をよくするために何をすべきか考える。
- ★自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表する。
- ★自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しい物を作り出す活動を行う。
- ★（小学校）理科の授業で学習したことが、将来、社会に出たときに役立つと思ったり、将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思ったりする。
- ★（中学校）国語、算数、理科が好きで、授業の内容がよくわかる。
- ★（中学校）家で自分で計画を立てて勉強する。

(3) 今後、力を入れたいこと

授業について

- ・ICT機器を活用し、情報活用能力を養い、効率的な学習を進めていくようにする。
- ・ICT機器を活用し、挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を行い、分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めるようにする。
- ・デジタル教材を活用し、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解の程度に応じた学びができるようにする。
- ・ICT機器を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学习において子供同士による意見交換や発表など、お互いを高め合う学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成する。
- ・目標を明確に設定し、子供と共有することで、子供一人一人が課題解決に向けて、主体的に取り組めるようにする。
- ・振り返りの時間を設定し、子供自身が学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見つめ、次の学習につなげることができるようになる。

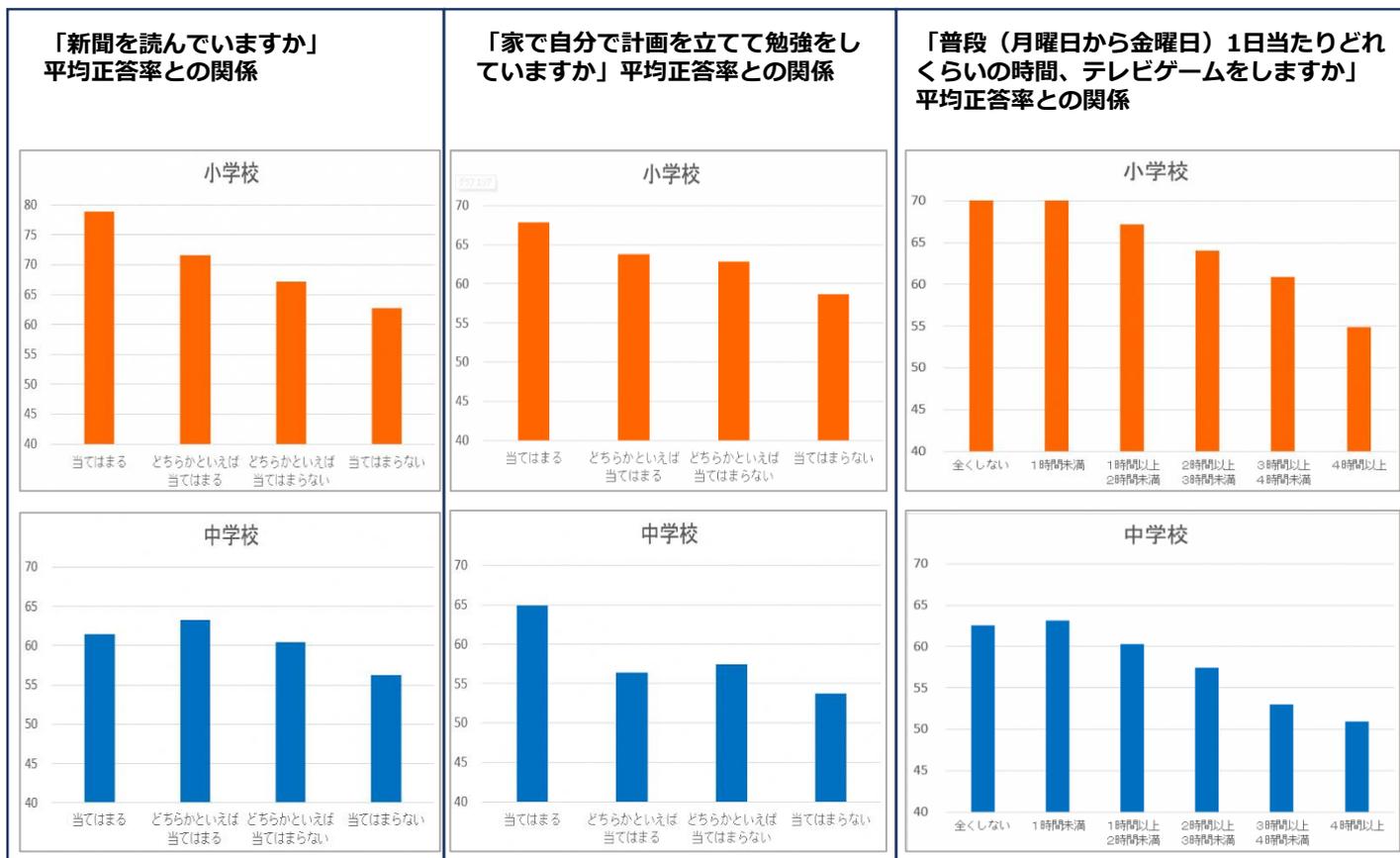
教育活動全体について

地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会を多くしていく。

※各小中学校からも「学力向上へ向けた学校の取組」を、各学校の実態を踏まえて具体的にお知らせする。島田市の子供に、確かな学力が身に付けられるように今後も努力する。

3 保護者のみなさまへ

日頃から新聞を読んだり、家で自分で計画を立てて勉強したりしている子供の方が、平均正答率が高くなる傾向が見られます。また、平日の1日あたりにテレビゲーム（PCやスマホ等のゲームも含む）をする時間が平均正答率と関係する傾向が見られます。



- ◇社会の動きに関心を持ち、新しい知識や教養を得るために新聞を読むことは大変有効です。一緒に新聞を読んだり、社会の出来事やニュースについて話す機会を設けたりしていきましょう。
- ◇子供が自分で計画を立て、学習を進めていけるよう、お子さんの成長に合わせて、アドバイスをしたり、励ましたりしていきましょう。
- ◇テレビゲーム・携帯電話・スマホ・コンピューター等の使い方について、ご家庭で話し合い、はじめを付けて使うようにしましょう。